

# 博物館リンクワーカー人材養成講座

## オンライン語り場「地域住民の健康を支える方法を考える」

カナダの医師会は2018年11月から、患者の健康回復を促進する治療の一環として、美術館への訪問を「処方箋に書く」取り組みを始めています。医師会とモントリオール美術館が連携し、心身にさまざまな健康問題を抱える患者とその家族などが、無料で美術館に入館し、芸術文化の健康効果を楽しむことができました。

また、英国のロンドン大学の研究グループは、展覧会やコンサートなどの文化芸術を鑑賞する機会が多い人の方が、全くない人に比べ、死亡率が有意に低いと報告(2019年)、さらに、ウェストミンスター大学のAngela Clow(2006年)やワシントン大学のTer-Kazarian(2019年)は、美術作品を昼休みの短時間に見るだけでも、ストレスの軽減になると報告しました。

現在の日本は、団塊世代が75歳以上になる「2025年問題」に続き、高齢者人口がピークを迎える「2042年問題」や約7人に1人の若者がメンタルヘルス不全を抱えるという、大きな健康課題を抱えていると言えます。

地域にある博物館に、できることはないのか？

そこで、本事業では、カナダをはじめ、米国、英国、台湾などの事例調査をもとに、地域住民に向けた「博物館浴\*」プログラム開発、そして学校、医療・福祉機関と博物館などをつなぐリンクワーカー人材育成を目指すことで、社会資源の新たな活用方策＝社会的処方場の場となる「博物館健康ステーション」運用方策を提案したいと考えます。

今回の連続講座は、「オンライン語り場」と名づけています。

毎週金曜日の午後からの90分。地域の博物館、美術館などを活用しながら、地域住民の健康と学びを支える実践を粘り強く進めている、医療・福祉従事者、学芸員からの話題提供を受け、その後は参加者と一緒に意見交換を行う「語り場」とします。

こうした「語り場」を通じて、地域の学校、社会教育施設、医療・福祉機関が協働した「誰もが全国5,700ある博物館のリンクワーカー」という、新たな地域人材育成の方策やプログラム開発を考える機会を共に作りましょう。

もちろん、私たち学芸員の健康なくして、よりよい博物館活動はできません。

金曜日の午後からの90分。大いに語り合しましょう。

\* 博物館浴：博物館見学を通して、博物館の持つ癒し効果を生きた健康増進・疾病予防に活用する活動

### 「オンライン語り場」日程一覧

回数	開催日	開催時間	タイトル	講師
1	11月10日(金)	13:30～15:00 話題提供 30分、 その後は「語り場」	博物館と医療・福祉機関の連携の進め方	中込 潤 (九州産業大学美術館) 藤 洋介 (香椎丘リハビリテーション病院)
2	11月24日(金)		「歴史文化財課 佐野さんの民具図鑑」の作り方	佐野 正晴 (甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課)
3	12月1日(金)		社会課題と向き合う美術館活動	田中 今子 (中村キース・ヘリング美術館)
4	12月8日(金)		地域で認知症高齢者を支える ～ 基本知識と対応法 ～	有馬 泰治 (千鳥橋病院、医師)
5	12月15日(金)		院内学級に対するオンラインプログラムの開発 ～ これまでとこれから ～	三角 徳子 (福岡市博物館)
6	12月22日(金)		考古資料を活かした触覚活用術の実践とその可能性	小林 善也 (下関市立考古博物館)

開催方法	Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング	定員 >>> 各回30名	受講料 >>> 無料
参加対象	博物館・図書館/医療・福祉従事者、大学教員、学芸員有資格者で「博物館と健康」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等		

博物館リンクワーカー人材養成講座

オンライン語り場

第1回 11月10日(金) 時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

博物館と医療・福祉機関の連携の進め方

九州産業大学美術館と、香椎丘リハビリテーション病院は昨年より連携事業を行っています。その進め方や、連携のメリット、課題など、具体事例を交えながら、双方の視点でお話しします。



中込 潤 (Jun NAKAGOME) 福岡県/九州産業大学美術館 学芸室長  
藤 洋介 (Yosuke FUJI) 福岡県/香椎丘リハビリテーション病院地域連携室 室長、医療ソーシャルワーカー、社会福祉士・精神保健福祉士

第2回 11月24日(金) 時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

「歴史文化財課 佐野さんの民具図鑑」の作り方

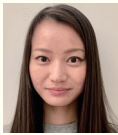


ケーブルテレビで放送中の「歴史文化財課 佐野さんの民具図鑑」。市所蔵の民具(人々が生活や仕事のなかで使ってきた道具・用具)を紹介する番組です。制作の契機や裏側を、その後の展開や反響も交えてお話しします。

佐野 正晴 (Masaharu SANO) 滋賀県/甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課主査

第3回 12月1日(金) 時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

社会課題と向き合う美術館活動



キース・ヘリング(1958-1990)が80年代に行ったHIV・エイズや反戦反核、人種差別に対する活動と、そこから地続きの現代における社会課題に向き合う当館の活動についてお話しします。

田中 今子 (Imako TANAKA) 山梨県/中村キース・ヘリング美術館 学芸員

第4回 12月8日(金) 時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

地域で認知症高齢者を支える～基本知識と対応法～



高齢者の入院治療や慢性疾患の外来管理を行っています。医療・介護チームで身体機能や認知機能が徐々に低下していく高齢者のサポートを行っています。今回は、認知症の基本的な知識と対応方法についてお話しします。

有馬 泰治 (Yasuharu ARIMA) 福岡県/千鳥橋病院総合内科 医師

第5回 12月15日(金) 時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

院内学級\*に対するオンラインプログラムの開発～これまでとこれから～



院内学級などの事情により、対面での出前学習が困難な特別支援学校児童を対象に、令和2年度から始めたオンラインプログラムの成果と課題を報告するとともに、今後期待されるオンラインと対面を併せたハイブリッドプログラムを展望します。

\*院内学級:長期の入院治療が必要な児童・生徒のために病院内に設置された学級。

三角 徳子 (Noriko MISUMI) 福岡市博物館 集客・広報普及専門員(教育普及担当)

第6回 12月22日(金) 時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

考古資料を活かした触覚活用術の実践とその可能性



下関市立考古博物館が令和3年度から取り組みを始めた、「触察」をテーマとした学習プログラムづくり。その顛末と可能性について、博学連携の実践例を中心に、健康への視点も意識しながらお話しします。

小林 善也 (Yoshiya KOBAYASHI) 山口県/下関市立考古博物館 主任(学芸員)

【参加にあたっての注意事項】

- 参加にはWi-Fiなどの安定した通信環境と、インターネットに接続したパソコンやタブレット、スマートフォンが必要になります。
- 円滑な参加のために、事前に「ミーティング用Zoomクライアント」をインストールしておくことをお勧めします。インストールはこちらをご参照ください。  
[https://zoom.us/download#client\\_4meeting](https://zoom.us/download#client_4meeting)
- ZoomのURLの転送、視聴中の録画や録音は固く禁じます。

メール申込はこちら



申込方法

受講希望の方は、①件名:連続講座 ②内容:氏名(ふりがな)、所属、職名、この連続講座に期待することを書いて、E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp へ、お申込みください。  
なお、申込締切は10月27日(金)とします。また、単発参加希望の場合はお問い合わせください。

参加対象

博物館・図書館/医療・福祉従事者、大学教員、学芸員有資格者で「博物館と健康」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等

開催方法

Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング

定員 >>> 各回30名

受講料 >>> 無料

問合せ先

中込 潤 (実行委員会事務局長、九州産業大学美術館学芸室長) E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

事業責任者

緒方 泉 (九州産業大学地域共創学部教授)



〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1  
tel 092-673-5160 / fax 092-673-5757  
ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp  
<https://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/>

主催

主催:「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会(代表<九州産業大学美術館>、九州大学総合研究博物館、海の中道海洋生態科学館、福岡市博物館、福岡市美術館、田川市石炭・歴史博物館、直方谷尾美術館)

